

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)**

事業所番号	2772800526		
法人名	医療法人 全人会		
事業所名	グループホーム ソシアス此花春日出		
所在地	大阪市此花区春日出北2丁目14-2		
自己評価作成日	平成29年8月5日	評価結果市町村受理日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年9月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症ケアや介護の質の向上のために定期的な勉強会や内部研修への参加を促しています。医療支援者のケアも行っており、医療機関からの協力を得て入院させない介護に取り組み、出来る限り最後までホームで生活して頂ける体制を整えており、スタッフは介護の質や技術の向上に努めるだけでなく、医療の知識の獲得にも努めております。日中は施設することなくフロア内だけでなく上下の行き来もスタッフ付き添いのもと自由に行き来出来るよう援助しております。近隣には公園や商店街などもあり定期的に買い物や散歩など出かけて、地域との交流も大切にしております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、此花区のほぼ中央に位置し、駅や区役所・公園・商店街に近く生活環境に恵まれた立地条件に在る。平成16年11月に4階建ての2～3階部分に2ユニットで開設され、1階には小規模多機能型居宅サービスが併設されている。この恵まれた立地条件と医療福祉事業を多角運営する事業主体の全面的なバックアップを基に、日常的に買い物や散歩や公園での四季折々の草・花を愛で自然を楽しみながら「重度化させず・入院させない介護」を目標に認知症ケアのみならず医療支援についても毎月勉強会を重ね、介護の質向上に努めている。医師と看護師による日常的な往診・夜間・緊急時の即応体制も構築しているため本人・家族はすこぶる安心である。口から食事を摂れず点滴のみの利用者4人を2年以上も見守っているのは、全職員の並々ならぬ努力の成果であり、特筆に価する。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「住み慣れた地域の中 思いやり みんなでひとりを支えよう」を掲げフロアーにも掲示して職員間で共有してケアに取り組んでいる。	理念は、地域密着型サービスの意義をふまえて「住み慣れた地域の中、思いやり みんなでひとりを支えよう」とし、各フロアーに掲示して職員間で共有しながら日々その実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りなどイベントに参加散歩や買い物際には挨拶を交わしている。	町会に入会し、春の桜祭・夏の盆踊り・秋の地蔵盆等地域の行事に参加したり、ホームで行う収穫祭に地域の人々を招待している。近くの此花公園に「ソシアス花壇」を設け、環境美化活動に協力したり日々の散歩や商店街での買い物の際に挨拶を交わして積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護でお困りの方には電話での相談や施設に来所頂き施設内の見学も行ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。事業所内での取り組みなどをその際に報告し、意見も頂いている。	運営推進会議は、地域包括センター職員、自治連合会部長、町会部長、民生委員の参加の下、偶数月の第3木曜日に開催している。利用者・職員の状況、行事や研修等の実施・予定を報告し、意見を求め双方向の会議となっている。	家族・利用者の参加と議事録の配布を検討中である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡会などへの参加電話連絡やメールなどを活用して連携を図っている。	日頃から市の保険福祉課を訪問して、事業所の運営状況を報告し、困難事例についてはアドバイスを受けている。市の主催する各種会議に積極的に参加して情報交換して、担当者との緊密な連携・協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しないことで職員付添いのもと自由に行き来して頂いている。	管理者および職員は、定期的に勉強会・研修を行い、身体拘束の弊害を十分に理解して身体だけでなく言葉による拘束もしないケアに取り組んでいる。玄関は日中、施錠せず、見守りを重視して外出希望に即応している。、フロア間の行き来も自由で開放感が感じられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料などを活用している。職員それぞれが他の職員のケアの仕方等にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会や個々に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所までに契約に関する説明を十分に行い契約を行っている。後に疑問点などがあれば納得頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族と随時コミュニケーションを図りご意見を聞き取り職員間でも周知を行い運営に反映させるよう努めている。	利用者の意見・要望は日々の関わりの中で些細な事でも気になることは書き留める、家族の意見・要望は来訪時、介護記録等を基に暮らし振りを説明しながら意見・要望を丁寧に聴き取り、フロア会議で検討して運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングなどで管理者や代表者などとも話をする機会を設け運営に反映している。	管理者と職員のコミュニケーションは良く取れており、何でも話し合える関係にある。毎週フロア会議を2階は金曜日、3階は日曜に行っている。利用者のケアの状況と対応についての話し合いが多いが、最近提案を運営に反映した事例は、利用者個々の薬の受け入れから投薬完了までの管理表の作成が有る。自己評価を基に個人面談も年2回行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価とレポート提出。やりがいや給与の向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体での勉強会を実施。外部講師などにも講演してもらい勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を図り、他事業所の取り組みやケア方法の情報交換や連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までにご本人からお話伺い新たな生活への不安やご要望など聞き取りを行い、安心して入居頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへ来所、見学してもらい雰囲気などを見て頂き、その際に取り組みなどもお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内での資源を活用してその方に応じたサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを大切にしてその人その人の喜びや悲しみに共感できるよう関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度ご利用者様の状況を報告してご家族様の協力も得ながら支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出などを通じて馴染の場所や関係などを継続できるよう支援をしている。	経年と重度化で馴染みの記憶が薄れていくが、数少ない友人・知人の訪問や行きつけだった商店街の菓子店・喫茶店への通いを大切に継続支援している。家族の支援を得て、墓参りや帰宅もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も間に入ったり座席にも配慮を行い利用者が孤立しないよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も今後介護などの相談を受けられるよう関係を保っていただけるようお声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族などに生活への思いや意向などを聞き取り把握に努めている。	入所時に、本人・家族区から聴き取った生活歴・趣味・特技等を記録したフエースシートを基に、その後のホームでの暮らし方の希望や意向の変化を日々の関わりの中で把握するように努め、その情報を皆で検討・共有して介護計画に活かしている。特に、入浴や散歩等の個別ケアの折に、親しく本音が聞けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報をご家族やケアマネジャーより得たり、日々コミュニケーションをとる中でご本人からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の毎日の申し送りにて日々の状態を報告・把握して適切なサービスの提供を行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前にはご本人やご家族のご要望などを伺い、カンファレンスを踏まえての介護計画を作成している。	本人・家族の要望と主治医・看護師の所見・アセスメントシートや介護記録・モニタリングの結果を基に、毎月サービス担当者会議を開催して、介護計画の見直しの要・否を皆で話し合い、現状に即した本人本位の介護計画を作成している。状態の変化が有れば、即、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日その日の記録を職員間で共有してサービスに反映できる内容など見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内での資源を活用し、グループ外でのサービスも活用して幅広いサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などにも参加して地域の人と関わることにより楽しみをもって生活ができるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医がいる診療所には体調不良時にはすぐに受診できるよう体制が整っている。	入所時に経営母体が医療法人で、医療連携の体制が整っている事を説明し、本人・家族の了解の下、現在はほぼ全員が母体の協力医の受診を受けている。往診はドクターが月2回・看護師が週2回で安心・安全な体制が整っている。特殊な科は家族の協力を基本に、出来ない時はホームも支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており訪問看護師の来訪もあり、日常の健康管理や医療の相談もできる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の紹介の下提携病院への入院が行えるよう体制を整えている。入院期間が長引かないよう退院後の体制を整え早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明を行っている。入居後状態の変化に合わせて主治医も含めてご本人やご家族に説明を行っている。	入所時に「重度化した場合における対応」「看取り」の指針書に基づきホームとして出来る事、出来ない事を丁寧に説明し同意を得ている。看取りも5年間にて10例ほど経験しており、ホームとしての体制も整い家族も安心して任せている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成。日頃から指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練には入居者も参加してもらっている。建物単位で他の事業所とも合同での訓練を実施して、緊急時に備えている。	年2回の消防署指導の下の訓練は出来ている。訓練は1階の小規模多機能と合同で行っている。1階の管理者が防火管理者なので、訓練打ち合わせが重要である。グループホーム独自のマニュアルが作成されていない。備蓄もなく近隣の方の訓練への参加も今後の課題である。	災害には、火災・地震・水害の異なる対応が考えられる。各災害毎の対応マニュアルを作成し、地域の方と一緒に訓練することが重要である。運営推進会議を通して理解を求め協力を得ることを期待する。備蓄も重要なので徐々に対応を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者様であることを常に忘れず個々の認知症の状態を把握した上で援助に努めている。	入居者を人生の先輩と考え、プライド・プライバシーを損なわない様に言葉使いや・接し方に留意し、ホーム内にて接遇等の研修をしている。プライバシーの書類の保管は鍵のかかるロッカーに厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人やご家族よりホームでどのような生活を送りたいか、また送ってもらいたいかが聞き取りを行い支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の暮らしを最優先して、決してスタッフ本位にならないよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の来所もあり希望に応じて毛染めなどを行ってもらっている。外出する際には服装などの身だしなみに注意を払っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけについて入居者への依頼も行っている。汁物などの味付けは味見をしてもらったりもしている。	食材は業者よりチルドにて配送され、職員が温め提供している。ご飯・みそ汁はホームにて作っている。職員は食事介助はしているが、一緒に食事はしていない。検食も徹底されていないが、業者とは3ヶ月毎に検討会を開いている。職員の中の一人でも同食事をし、一緒に楽しむ様に考えて頂きたい。	食事は利用者にとって一番の楽しみの一つです。利用者と職員が家庭的な雰囲気のもと同一食を楽しく時間を持つ事は重要と考えます。検討して頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	都度食事や水分摂取量については記録を行っている。状況に応じて診療所にも報告を行い対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。食事の摂取をされていない入居者にも時間を決めて口腔ケアを実施。必要に応じて訪問歯科の指導を受けたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は極カトイレ誘導を実施してトイレでの自尿を促している。排尿パターンも把握して随時排泄のお声掛けを行っている。	排泄パターン表より、個々のパターンを把握し、時間少し前にそれとなく声かけし、トイレへと誘導し、自立に向けた支援に努めている。現在、昼夜ともおむつ使用者は一人のみで、できる限りおむつを使用しないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや水分摂取を促しできる限り自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定されているが個々の希望に応じて対応を行っている。体調不良時には清拭も行っている。チェック表も活用して入浴していない期間が長くないよう努めている。	入浴は週2回を基本に体調等を確認し柔軟に対応している。日曜日は入浴日とせず、外出に振り向けADLの低下を防いでいる。体調により清拭・シャワー浴を活用し清潔保持に努めている。入浴拒否者には人・時間を変え強制ではなく入って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣を把握した上で起床や就寝のお声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更の際には効能などを薬情で理解をしその後の変化の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事出来ない事を考慮して役割を担ってもらっている。日常的なレクリエーションも実施して楽しみを持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を設け一緒に近隣まで買い物にいたり行事などにはご家族にお声掛けを行い協力も呼び掛けている。	日常的な外出は天候・体調に合わせて近くのスーパー・此花公園(この公園にはソシアス花壇が設けられており、色とりどりの花で季節感を味わっている)日曜日は入浴日無くし出来る限り外出に廻している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方については行ってもらい、管理が不可の方については施設での立替も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙の代筆など支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節感を取り入れた装飾なども行い昔なじみの音楽をかけたリラックスできる空間作りを行っている。	開設して13年余り、建物自体にも(フロアも同様)年輪を醸し出している。フロアの壁面は余りけげばしく飾りつけをせず、落ち着いた風情が漂っている。広く・明るく清潔感があり、居心地よく過ごせるフロアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや座椅子などを配置して個々に過ごせる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた家具など馴染のものを持ちこんでもらい写真なども飾ってもらっている。	居室は家庭の延長感のある、使い慣れたタンスや身内の仏壇・家族の写真等が持ち込まれ過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレのマークのポスターなどをつくりお部屋には表札を掲げ自身の居室など認識した上で行動してもらえよう工夫を行っている。		